

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称 [英語名称]	花卉園芸各論 [Advanced Floriculture]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	
科目コード	710029	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	2年次
教員氏名	長江 嗣朗			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP1(2) DP2(1) DP3(4)		
授業概要	<p>花卉園芸は生産園芸、趣味園芸および社会園芸等に大別できる。本講義では、生産園芸を主として取り上げて講義する。すなわち、主要な鉢物および切り花を取り上げ、現在実際に生産現場で行われている栽培技術を紹介する。この授業の目的は、主要な花卉の栽培に役立つような知識と能力を身に付けることを目指している。</p>						
関連する科目	2年前期『花卉園芸各論』、『園芸生産環境実験実習Ⅰ』、2年後期『園芸生産環境実験実習Ⅱ』						
授業の進め方と方法	<p>板書、パワーポイントを主として用いる。また、随時プリントを配布し、理解度を高める。さらに、必要に応じて実物を持参して示す。</p>						
授業計画	<p>第1回：日本の花卉の生産と流通 現在、日本で栽培されている花卉について、また日本で流通している花卉について学習する。</p> <p>第2回：バラの歴史 バラ属は世界で最も愛されている花卉といえる。そのバラが世界中の人々に関わってきた歴史を学習する。</p> <p>第3回：世界のバラ属 北半球におけるバラ属の野生種を紹介し、またそれらから誕生した園芸品種についても学習する。</p> <p>第4回：オールドローズとモダンローズ バラ属はオールドローズとモダンローズに大別できる。それぞれの特徴とモダンローズの誕生について学習する。</p> <p>第5回：バラの生理 バラ属の中でも一般的は生理について学習する。</p> <p>第6回：切り花生産1(バラ) バラを対象に、切り花の生産方法について学習する。</p> <p>第7回：切り花生産2(カーネーション、キク) カーネーションおよびキクを対象に、切り花の生産方法について学習する。</p> <p>第8回：ユリの生理と生態 ユリ属の生理と生態について学習する。</p> <p>第9回：ユリの人為的開花 ユリの花が周年流通している理由とその栽培方法について学習する。</p> <p>第10回：ツツジ属の栽培 ツツジ属の栽培方法について学習する。</p> <p>第11回：ツツジ属(野生種および園芸品種と特徴) 世界でも人気のあるツツジは、日本原産のものも多い。それらの種について、その特徴を学習する。</p> <p>第12回：切り花生産3(ストック) ストックは花卉の中でも切り花生産が難しいことから、その生産方法について具体的に学習する。</p> <p>第13回：アジサイ属 アジサイ属の種類とその栽培方法について学習する。</p> <p>第14回：切り花の鮮度保持について 観賞期間が短い切り花について、その鮮度を保持する方法について学習する。</p> <p>第15回：まとめ これまでの14回の学習内容について復習する。</p>						
授業の到達目標	<p>まず、花卉が人類にもたらす影響を考察し、その必要性を理解することを目的とする。</p> <p>次に、国内における花卉産業は、近年海外からの輸入物の影響を受けていることを理解する。そこで、外国産の花卉と差別化ができるような国内での花卉生産について実際の現場で利用できるようになることを目的とする。</p>						
授業時間外の学修	<p>当日の授業に関連する分野について、下記の参考書を読んで、ある程度理解しておく。また、授業中に登場した花卉について、その生理・生態を調べて、さらなる知識を深めるように努める。予習、復習に2時間程度。</p>						
課題に対するフィードバック	各試験後に解説を行う。			評価方法	<p>期末に行う筆記試験によって、評価する(80点)。また、授業中に実施する小テスト(20点)についても評価に加える。</p>		
テキスト	必要に応じて、適宜プリントを配布する。						
参考書	「花卉園芸総論」、「花卉の開花調節」、「花卉園芸学」、「花卉園芸」、「観賞園芸学」、「花卉の栄養生理と施肥」						
備考							